令和４年度

中学生平和大使
沖縄派遣事業
報 告 書

大 府 市

事 業 の 概 要

１	目　　的	次の世代を担う若者を唯一の地上戦が行われた沖縄県（読谷村ほか）へ「平和大使」として派遣し、沖縄県平和祈念資料館や旧海軍司令部壕などの施設見学、平和戦跡ガイドとの意見交換などを通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを学び、同世代をはじめ、広く市民に伝えてもらうことを目的とする。
２	期　　日	令和４年７月２８日（木）・２９日（金）　１泊２日
３	派遣人数	６人（２人欠席） 事務局として、地域福祉課職員２人が随行
４	選出方法	広報おおぶ等で募集し、選考会において生徒８人を選出
５	対象学年	第２学年
６	感 想 文	報告書として編冊し、平和大使及び平和祈念戦没者追悼式参列者へ配布 市図書館及び中学校図書室へ設置。市公式ウェブサイトへ掲載

日　　程

【委嘱状交付式・事前勉強会】　令和４年６月２５日（土）

時間　午前１１時から午後４時

場所　市役所２階２０１会議室、ピースあいち（名古屋市名東区）

内容　市長あいさつ、委嘱状交付、自己紹介、事業説明、

事前勉強会（ピースあいち企画展「沖縄戦と日本復帰 50 年」見学）

【派遣１日目】　令和４年７月２８日（木）

６：５０　市役所集合

７：３０　セントレア到着

８：５５　セントレア出発［JTA045 便］

１１：１０　那覇空港到着

１２：５０　読谷村到着

～チビチリガマ、シムクガマ　見学～

１５：００　平和大使と平和戦跡ガイドとの座談会

（読谷村地域振興センター）

１６：００　読谷村内見学（座喜味城跡、米軍上陸の地碑）

１７：３０　ホテル到着

【派遣２日目】　令和４年７月２９日（金）

８：００　ホテル出発

９：２０　沖縄県平和祈念資料館見学

１２：００　ひめゆり平和祈念資料館見学

１３：４０　旧海軍司令部壕見学

１５：００　那覇空港到着

１６：０５　那覇空港出発［JTA044 便］

１８：２０　セントレア到着

１９：２０　市役所到着　解散

【沖縄派遣報告会】　令和４年９月４日（日）

時間　午前１０時から

場所　市役所２階２０３・２０４会議室

【平和祈念戦没者追悼式】　令和４年１０月２日（日）

「平和に向けたメッセージ」を発表

時間　午前１０時から

場所　市役所地下多目的ホール

「平和大使」の紹介

香月　芽優

三浦　健寛

阪野　由晟

土倉　悠暉

柿本　美悠

深谷　陽太

冨安　美羽

鈴木　香澄

（順不同、敬称略）

岡村市長から委嘱状の交付を受ける
平和大使

「ピースあいち」で館内ガイドから
説明を受ける平和大使

「平和大使」感想文

（平和大使の想いを尊重し、原文を掲載していますが、一部修正しています。）

「平和」と向き合う

大府中学校　香月　芽優

私は沖縄に平和大使として行く前、戦争はただただ人の一番大切な命を奪い恐ろしく醜いものだと思っていました。けれどそれは分かっているつもりだっただけで、実際にその場で見て、感じていくたびに「平和」という言葉の重みが増していきました。今、自分は恵まれているから自分の命を自分で絶ってはいけない、自分の命は自分で守れと言えます。けれど、ガマで敵だと思い込んでいた知らない外国人に「デテコイ」と言われる恐怖や、ひめゆり学徒隊の方々のように目の前で死んでいく人を目の当たりにしたら、人は人でなくなり、何もかもがどうしようもなくなってしまうだろうし、自分も何をするか分からないと思いました。戦争というものは、人と人とが殺し合うだけでなく、自分の命までも絶ってしまおうと思うほど、恐ろしく、悲しい事だと改めて実感しました。

「平和な世」というのは一見、簡単に実現できそうなことですが、今も世界では戦争が起こっていて苦しんでいる人が大勢いるというのが現実です。今、自分はまだ10代で一人では世界平和を簡単に実現できないと思います。しかし、自分たちがそれにつながる行動はできます。私は「平和」というのはみんなが笑顔でいられることだと思います。特に子供が笑顔でいる世の中ほど平和な世はないと思います。

実際に沖縄に行く前も行った後も変わらない私の思いは、戦争での死を無意味にしたくないということです。家族を戦争で亡くし、つらい思いをした人たちが、思い出したくない過去を苦しみながらも

未来のために伝えてくれた「平和」という言葉を大切にし、自分の思う「平和」を成し遂げるために周りの人々や子供たちに笑顔を広め、沖縄戦の真実を語り継いでいきたいです。

77 年前、米軍の上陸した海岸を眺める平和大使（読谷村）

海軍戦没者慰霊之塔（旧海軍司令部壕）

平和への一歩

大府中学校　三浦　健寛

私は平和大使として７月 28、29 日に沖縄へ行きました。この二日間で最も印象に残った所はチビチリガマです。1945 年４月１日、沖縄の中部に位置する読谷村に約 54 万人の米軍が上陸しました。チビチリガマは米軍が上陸した所から約 600ｍ離れた所にあります。そこは自然にできた洞窟で深く、とても涼しいところで、多くの村人達はそこへ避難していました。次の日の朝、彼らはバンバン鳴り響く銃声で目が覚め、戦車によって潰されたサトウキビ畑を見ました。どんどん攻められ窮地に立たされた彼らは「米軍の捕虜になれば何をされるか分からない、自分達で死のう」と家族同士でも殺し合いをしました。子を手にかけた母親もいたそうです。その母親はどんなに辛かったことでしょう。私の母は言います、「この世の中で最も大切な物は自分の子の命だ。」と。その思いは 1945 年の母親も同じであったはずです。それでも、そんな事をしてしまうほどの尋常じゃない精神状態に追い込ませる、それが戦争です。

今までの自分自身を含めて私の世代の多くは戦争がどういうものかを知りません。私は今回の経験をきっかけに、戦争の事をより多く学び、できるだけ多くの人達に戦争が引き起こす非日常、狂気、悲惨さを伝えていき、平和の大切さに対する意識を高めていきたいです。また、争いそのものを起きないようにしていきたいです。例えば、友達とケンカしてしまったときも、「あの子のそういう考えもあるんだな。」と相手の気持ちを考え、理解することによってケンカは少なくなると思います。

今、ロシアとウクライナが戦争をしているように、平和を維持する事はとても難しいことです。しかし、世界中のみんなが戦争の事を学び、相手の気持ちも考えるという心構えを持つことによって戦争を無くしていけると思います。だからできるだけ多くの人達にこの思いを伝えていきたいです。できる事は些細な事かもしれないけど、一歩ずつ積み重ねて少しでも平和へとつなげていきたいと思います。

平和戦跡ガイドの説明を受ける平和大使（チビチリガマ）

座喜味城跡（読谷村）

平和の大切さ

大府西中学校　阪野　由晟

僕は平和大使として 7 月 28 日、29 日に沖縄県に行きました。飛行機の窓から見えた沖縄の海はとてもきれいな色でした。

現地では、平和戦跡ガイド青山さんの説明を聞きながら、チビチリガマとシムクガマを見学し、座談会で意見交換をしました。その後、座喜味城跡、米軍上陸の地碑の見学をしました。その中でも特に心に残ったのは、チビチリガマです。青山さんから、母親が自分の子どもを切りつけたり、毒薬を親せきや知り合いに注射し殺し合い、多くの方が集団自決した話を聞いた時は、全身に鳥肌が立ちました。

座談会では、「正しい情報の重要性」について学びました。チビチリガマでは、多くの人が米軍に捕まったらひどい目に遭うと信じ込んだ結果、自らの意志で命を落としました。一方で、シムクガマでは、ハワイに住んだ経験があり、アメリカのことを正しく理解していた 2 人のリーダーのおかげで、多くの人が助かったと言われています。現在ＳＮＳなどで嘘の書き込みをよく見るので、正しい情報か、そうでないかを自分で見分けることが大切だと思いました。

次の日は、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館、旧海軍司令部壕を見学しました。資料館では、改めて戦争の恐ろしさが分かり、戦争を経験した方の証言映像が心に残っています。

旧海軍司令部壕では、館長さんのお話を聞く事が出来ました。壕の入口には千羽鶴がありました。壕の内部には、兵士たちが細い通路に並んだり、狭い空間で立ったまま体を休めていた場所や、6 人が、手榴弾で自決した時に出来た破片のあとが壁にくっきりと残っている

部屋があり、とても胸が苦しくなりました。

沖縄では、最初に見たきれいな海からは想像できない戦争での悲惨な出来事を資料館やガイドさんなどによって、風化させない様に次の世代へと語り継がれています。

今回、僕はとても貴重な体験ができました。学校の友達、家族や身近な人たちをはじめ、多くの人に平和の大切さを語り継いでいくことで、調和が取れ穏やかに笑顔で過ごせる平和な世界を目指して頑張っていきたいと思います。

座談会の様子（読谷村地域振興センター）

壁面に掘られた海軍司令官の辞世の句
（旧海軍司令部壕）

美しい沖縄の海

平和のために僕らができること。

大府北中学校　土倉　悠暉

僕の曾祖父は戦争経験者で、ロシアで捕虜になっていたそうです。その話を母から教えてもらったとき、曾祖父はすでに他界しており、直接戦争経験を聞くことができませんでした。僕は、戦争で何があったのかをもっとよく知りたいと思い、今回平和大使に応募しました。

沖縄では最初に、戦時中の住民の最後の避難場所であったガマという自然洞窟に行きました。チビチリガマでは「集団強制死」というものがあったそうです。このガマでは、米兵に捕まったらひどい仕打ちをされると信じられていたため、幼い子どもが親に「殺してくれ」と頼むこともあったそうです。僕はこのことを聞き、とても胸が苦しくなりました。

二日目には平和祈念資料館に行きました。そこでは、撃たれて死んでしまったおばあさんと子どもの写真やボロボロになった当時着ていた服などが展示されていました。また、生き残った方々の動画や文書では、「隣りの人が死んでも何も思わなくなっていた。」、「重傷を負った人を置き去りにして見殺しにした。」と言っていました。戦争は普通の感情までマヒさせてしまう、恐ろしいものだと思い知らされました。

今回の派遣を通して、「戦争は民間人も巻き込み、人の感情や考えまでも曲げてしまうとても恐ろしくて悲しいものだ」ということを強く感じました。

僕たちは今、学校に通い、友達と遊び、たくさん笑って過ごしています。今ある生活は、曾祖父たちが経験した悲惨な戦争という出来事

の上にあります。その戦争を繰り返さないように、忘れないようにしていくために僕たちには何ができるのか。平和のありがたさを日々感じ、この平和を守っていくために、今回学んだことを周りの人達に伝え、戦争について風化させないようにしていきたいです。

沖縄県平和祈念資料館

愛知県出身の沖縄戦犠牲者の氏名が刻まれた石碑［平和の礎］の前で手を合わせる平和大使（沖縄県営平和祈念公園）

愛國知祖之塔（沖縄県営平和祈念公園）

生きる強さ　命の大切さ

大府南中学校　柿本　美悠

私は平和大使の沖縄派遣で、現地の現状や沖縄の人々の戦争・平和に対する思いを知り、改めて戦争の恐ろしさ・平和の大切さを実感することができました。

二つのガマを見学して、「チビチリガマ」では集団強制死により多くの命が失われ、「シムクガマ」では勇気ある住民の行動で避難していた全員が助かったことが分かりました。私が考える二つのガマの違いは、比嘉さんのような勇気ある人の存在です。アメリカ軍が迫ってくる恐怖心がみんなにある中でのガマの生活で、チビチリガマでは多くの人が自決する選択をしてしまったけれど、シムクガマでは比嘉さんが行動を起こしたことによって全員が助かるという結果につながったと思います。

座談会では戦争の恐怖について教えてもらいました。沖縄の人々は、真っ暗なガマの中、見たことのないアメリカ人や食料を持って行ってしまう日本軍がいる状況で、誰が敵かも分からない生活が怖かったそうです。また、沖縄では、戦争が終わって 77 年が経った今でも不発弾がどこに落ちているか分からないという状況が続いています。沖縄に残っている 1,900 発もの不発弾を全て処理するのにあと 70～80 年かかると言われていて、不発弾による事故も起こっています。

現地での話を聞いて、二度と戦争を起こさないために私たちにできることを考えました。私は現地で実際に見て、聞いた戦争の恐ろしさ、命の大切さを家族や友達などに伝えていくことが平和への一歩

だと思います。

私は沖縄に行って戦争について深く知るまでは、戦争をしないことが平和なのだと考えていました。しかし、今回の経験を通して戦争が終わってもアメリカ軍の基地や不発弾が残っていて、平和と言える状況ではないことを知ることができました。沖縄派遣で学んだことをふまえて、これからの生活で命の大切さについて多くの人に伝えるとともに、生きる強さを見つけていきたいです。

平和戦跡ガイドの説明を受ける平和大使（シムクガマ）

比嘉氏の功績を称える石碑（シムクガマ）

読谷村の学校で配布される不発弾の注意喚起チラシを見せる平和戦跡ガイドの青山氏

普段の生活がどれだけ幸せか

大府南中学校　深谷　陽太

僕は沖縄へ行き、戦争を体験した人の話を聞いたり、戦争当時の状況についての写真を見たりして、今の自分たちがどれだけ幸せなのかを実感しました。今の自分にとって当たり前なことが当時は当たり前ではなかったことを痛感しました。例えば、お腹が空いたときにご飯を食べたり、のどがかわいたときに水を飲んだりすることは僕たちにとっては当たり前です。しかし、戦争中はそれが当たり前ではありませんでした。ご飯はろくに食べられず、水は泥水を飲んでいたそうです。それを聞いて普段好き嫌いをしている自分がばからしく感じました。

また、アメリカ軍は朝昼晩関係なく爆弾を発射しており、夜も安心して眠れなかったこと、戦争中は僕たちと同じくらいの年の中学生が戦争に参加していたことも聞きました。その中学生は爆弾を持ってアメリカ兵にぶつかっていったそうです。彼らには生きる権利もなかったと思うと恐ろしくなりました。そのせいで中学生を含む兵士の多くが戦死したそうです。生きていることなんて当たり前すぎた僕にとっては衝撃的な事実でした。毎日学校へ行き授業を受け、温かいご飯を食べ、安心して寝ることができる今の世の中がどんなに幸せなことなのかを痛感しました。そういった当たり前の生活を送ることができることに感謝して生活しないといけないなと思いました。

僕は沖縄へ行き、戦争のおろかさ、怖さを改めて知ることができました。戦争を起こすのは人だけども、止めることができるのも人だと

思います。そのためにはこの日本で起きた戦争を風化させては絶対にいけません。そうならないように僕は、家族や友人に沖縄で感じたことを伝えたいと強く思いました。そして、今回感じた様々な想いを忘れることなく、一日一日を大切に生活していきたいと思います。

館長の説明を受ける平和大使（旧海軍司令部壕）

ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆりの塔

平和都市宣言文

緑香るにぎわいの中、子どもたちの笑い声が響き、汗流し働く若者の姿や地域で活躍する元気な高齢者の姿が目に映るまち、健康都市おおぶ。大府市は、戦争のない平和な社会のもと、健康都市づくりに取り組み、着実な歩みを続けています。

世界の恒久平和は、人類共通の願いであり、日本国憲法の普遍の原理です。しかし、今なお世界各地で、核兵器の保有、テロ行為、武力紛争などの平和を脅かす様々な問題が起きています。

先人から引き継いだかけがえのない平和のバトンを守り、次の世代の子どもたちにしっかりと渡していくことは、今を生きる私たちの果たさなければならない重大な責務です。私たち大府市民は、一人ひとりの命を大切にし、核兵器、テロ行為などの脅威のない平和な社会の実現を強く訴えます。

日本国憲法の公布から 70 年目の節目の年に、恒久平和とあらゆる争いのない社会の実現を願い、ここに「平和都市」を宣言します。

平成 28 年 9 月 27 日　大府市

「平和都市宣言」石碑　（平成 29 年 9 月 1 日設置）